

1 収益不動産の期待利回りの推移

期待利回り=キャップレート：投資家が不動産から期待する収益性（利回り）のこと。

賃料一定のもとでは、キャップレートの低下は投資不動産価格（ここでは一棟収益物件）の価格上昇を意味します。

東京都変動 (全期間)

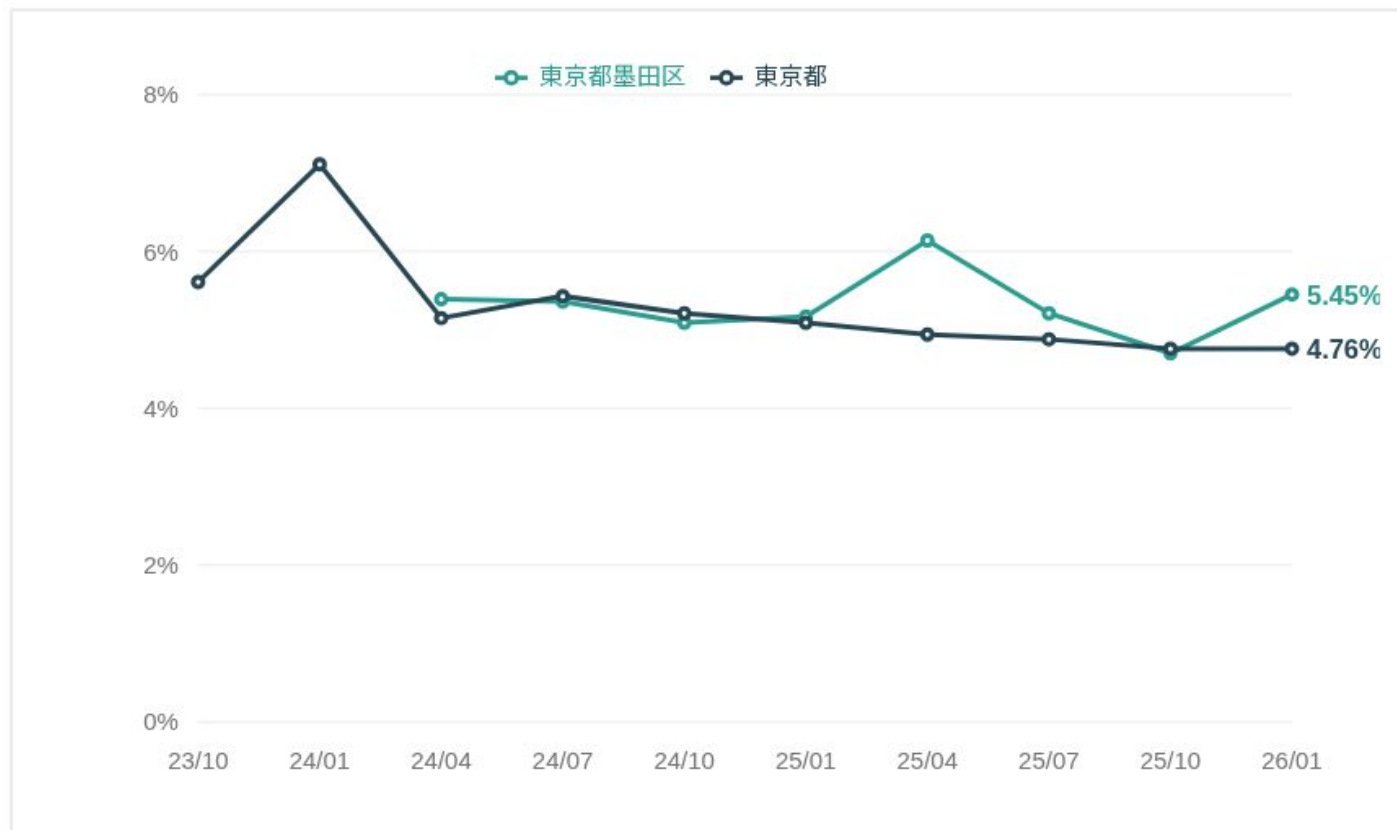
-0.25pt

東京都墨田区変動 (全期間)

-0.51pt

現在の差

-0.16pt



出典：政府統計、オープンデータ、自社取引履歴、外部調査機関

想定条件

※ここで想定する収益物件は以下の通りです
交通アクセス：最寄り駅から徒歩15分以内
金額代：3000万円以上
土地面積：30㎡以上
延べ床面積：50㎡以上
土地権利：所有権のみ



POINT データ解説

都全体は24/01の急騰（7.11%）後、緩やかな低下で26/01は4.76%に横ばい。墨田区は25/04に6.14%へ跳ね、その後25/10に4.70%まで反落し26/01は5.45%に戻る。

都は利回り低下で採算はタイト、賃料上昇余地と金利を精査し、融資条件の固定化も検討を。墨田区は変動が大きく、利回り跳ねた局面での仕入れや、反落後の再評価で機動的に対応、売却・入替も視野に。

2 売買価格推移

売買価格について

売買価格：マーケットで取引された一棟収益物件の価格水準。
取引価格と単価（坪・㎡）の両指標を時系列で見ることで、市場の値動きと面積効率の両面から相場を把握できます。



POINT データ解説

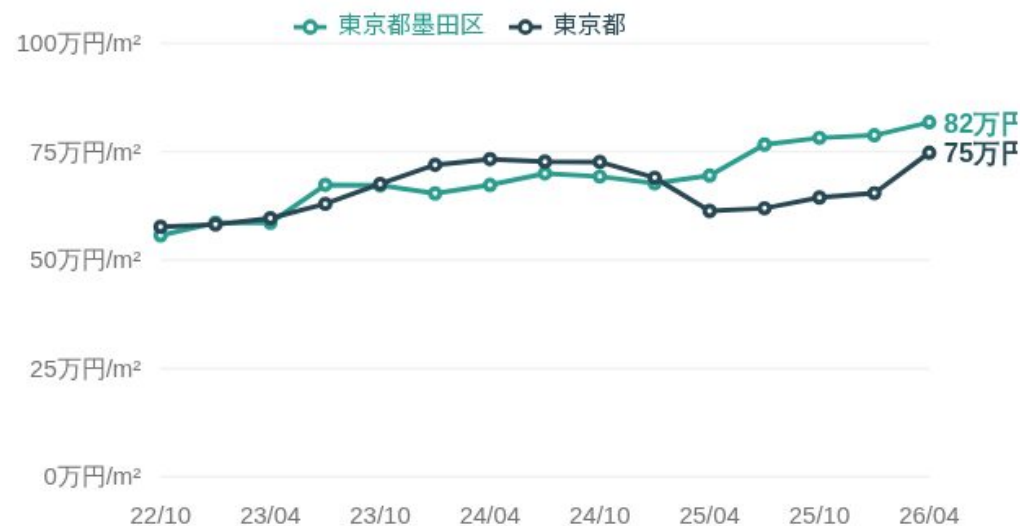
墨田区は22/10→26/04で概ね上昇し、全体として右肩上がり、23/07と25/07に大きく伸長。都全体は24年前半で頭打ち後、25/04に急落し26/04に急反発、25年前後に動きの乖離が目立つ。

投資は上昇が続く墨田区を軸に、下がった局面での購入と早めの売却判断を意識し、機動的に動きたい。一方で都全体は調整が出やすいので、下落時に分散して段階的に買い進めるとリスクを抑えやすい。

価格



単価



3 在庫数の推移

在庫数：マーケットに公開されている一棟収益物件の件数。

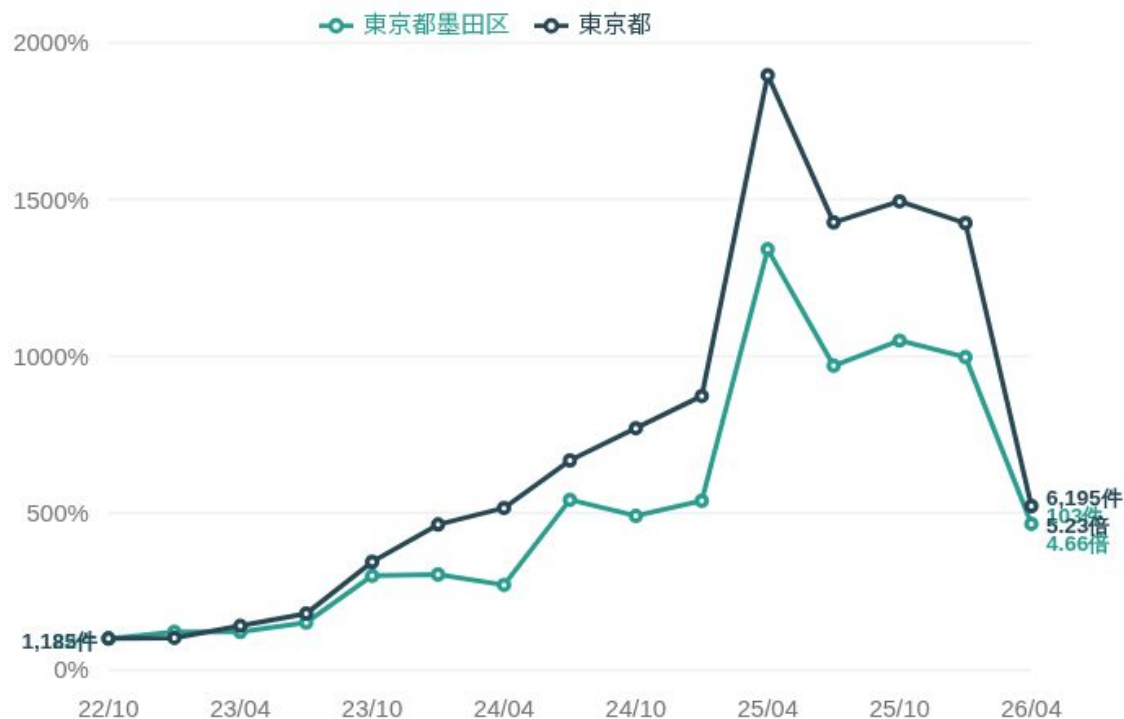
在庫の増減は需給バランスを示す先行指標であり、価格・利回り動向の理解に役立ちます。

東京都変動 (前年同月比)

-91.3%

東京都墨田区変動 (前年同月比)

-78.9%



出典：政府統計、オープンデータ、自社取引履歴、外部調査機関

想定条件

※ここで想定する収益物件は以下の通りです
 交通アクセス：最寄り駅から徒歩15分以内
 金額代：3000万円以上
 土地面積：30㎡以上
 延べ床面積：50㎡以上
 土地権利：所有権のみ



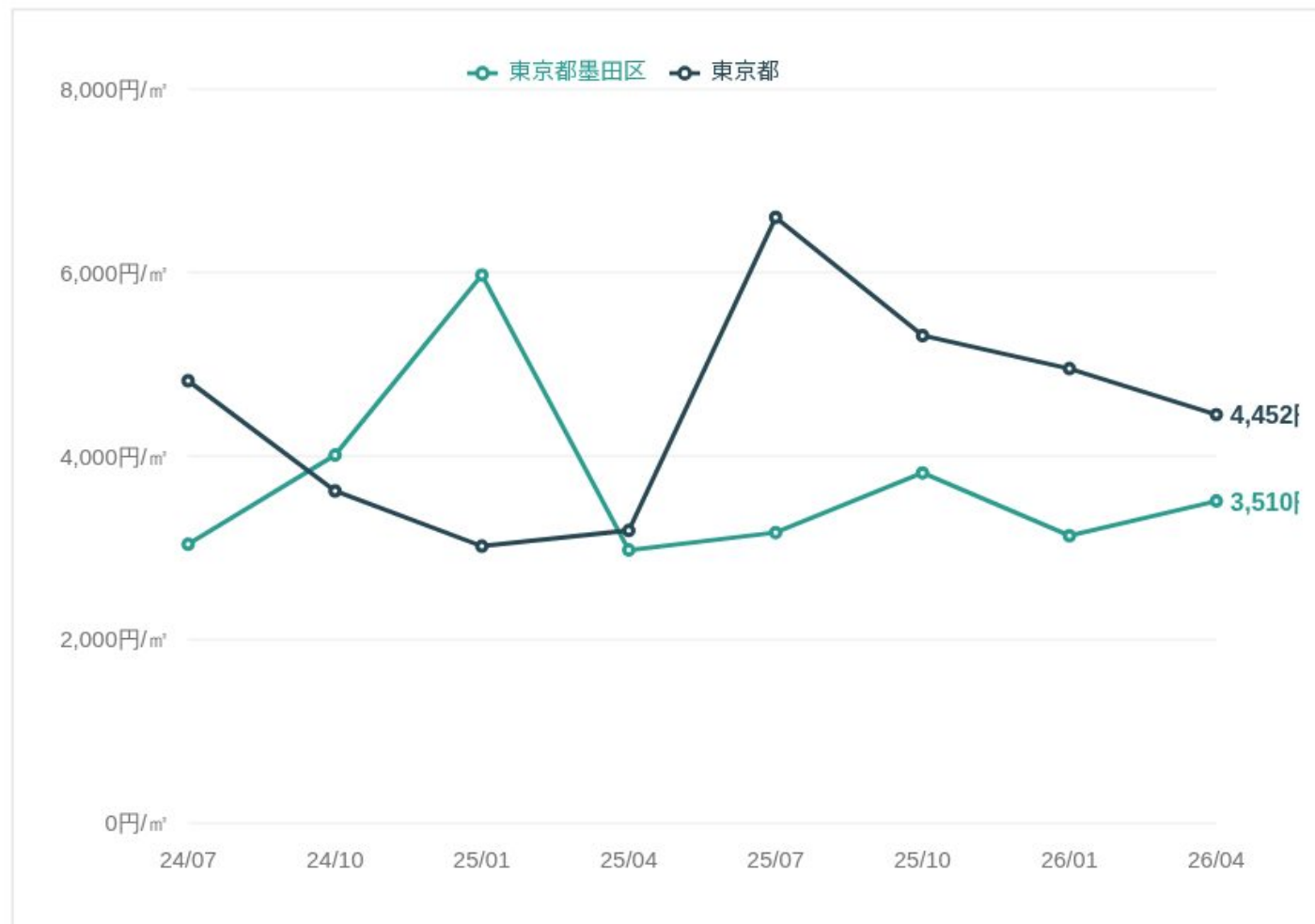
POINT データ解説

23年以降、都・墨田区の在庫は増勢。25/04に墨田区295件、都約2.25万件へ急騰という特異点の後、26/04には急減が目立つ。

在庫縮小で買い手の余裕は後退。資金準備を前倒しし、良質は即断で確保を。25年並みに厚い価格帯は選別と価格交渉で妙味を狙いたい。

4 賃貸賃料単価の推移

賃料単価：マーケットに公開されている一棟収益物件の月額賃料を面積（㎡）で割った単価（円/㎡）。
選択エリアと都道府県全体を比較することで、賃料水準の相対的な高低と推移を把握できます。



出典：政府統計、オープンデータ、自社取引履歴、外部調査機関

想定条件

※ここで想定する賃貸物件は以下の通りです
公開中の賃貸募集データに基づく
賃料単価 = (月額賃料 + 管理費等) ÷ 専有・延床面積
外れ値を除外して集計



POINT データ解説

墨田区は25/01に約5,974円/㎡へ急騰後すぐ反落し、その後は3,100～3,800円で上下。東京都は25/07に6,601円/㎡へ突出し、以降は緩やかに低下。

変動が大きいため賃料設定は小刻みに見直し。東京都は下がったタイミングで取得を検討、墨田区は安い時期に確保し回復時に改定。



TLLが提供する不動産仕入特化データプラットフォーム Urbalytics

AI駆動の市場分析と業務自動化で、収益不動産の仕入プロセスを高速化・標準化します



マルチチャネル物件監視

複数の物件情報チャネルを横断的に常時モニタリング。新着・価格改定・ステータス変更を即座に通知し、仕入機会を一件も逃しません。



賃料アップサイド可視化

数百万件規模の賃料履歴データに基づき、各物件の潜在的な賃料アップサイドを定量化。実績に裏打ちされた精度で、収益改善余地を一目で把握できます。



AI自動仕入スキャン

自社の仕入ルールを事前登録しておけば、市場の不動産をAIが自動でスキャン・分析。人手作業を大幅に削減し、レインズ等の外部データソースとも柔軟に連携可能です。

...そのほかにも多数の機能をご用意しています

Urbalyticsのご導入をご検討の不動産会社様は、support@urbalytics.jp までお気軽にお問い合わせください。

△ ご留意事項

※不動産投資はリスク（不確実性）を含む商品であり、投資元本が保証されているものではなく、元本を上回る損失が発生する可能性がございます。

※本マーケットレポートに掲載されている指標（例：利回り、賃料、不動産価格、REIT指数、金利など）は、不動産市場や金融市場の影響を受ける変動リスクを含むものであり、これらの変動が原因で損失が生じる恐れがあります。投資をする際はお客様ご自身でご判断ください。当社は一切の責任を負いません。

※本マーケットレポートに掲載されている情報は、2026年7月1日時点公表分です。各指標は今後更新される予定があります。

※本マーケットレポートに掲載した記事の無断複製・無断転載を禁じます。